

3 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等		履 行 状 況	今後の の実施計画
認可時 (令和元年度)	<p>建築・設備工学科について、ここ3年間で入学生が増えているがそれ以前の数年間は定員割れの状況であったことも踏まえ、合格者数や歩留まり率等も含めて分析するなど、長期的かつ安定的な学生確保に努めること。</p>	遵守事項	<p>平成27年度以前の入学者は、入学定員を大きく割り込み、平成24年度から27年度の平均入学者数は入学定員の74%で、志願者数が平均で入学定員の1.46倍の志願者状況であった。</p> <p>・定員割れの原因についての対応として、平成28年度より建築・設備工学科内の設備関係の教育充実と建築士関係の資格を重視した他大学との差別化を図り、資格取得等の幅広い広報戦略の見直しを行った結果、平成28年度から平成30年度の志願者状況が入学定員の3.23倍に増加し、入学者数が安定的な確保に繋がった。今後も、学生募集の更なる強化とともに、大学を取り巻く状況への対応を図りつつ、過去の合否判定データの再整理と試験制度別、志願状況及び歩留率等の詳細な分析を行い、安定的な学生確保に向けて入学者の確保を行っていく。</p>	履行済
設置計画履行状況 調査 (令和2年度)	<p>建築・設備工学科について、ここ3年間で入学生が増えているがそれ以前の数年間は定員割れの状況であったことも踏まえ、合格者数や歩留まり率等も含めて分析するなど、長期的かつ安定的な学生確保に努めること。</p>	遵守事項	<p>平成27年度以前の未充足から、学生募集戦略の強化を図り平成28年度より志願者が増えてきた。</p> <p>令和元年度入試においては、志願者が定員の2.45倍であったが、令和2年度入試においては、志願者が定員の3.46倍と増えてきている。平成28年度より定員を確保している。今後も志願者確保と合格者や歩留まり率等も含め、安定的な学生確保に努めていく。</p>	履行済

<p>設置計画履行状況 調査 (令和3年度)</p>	<p>建築・設備工学科について、ここ3年間で入学生が増えているがそれ以前の数年間は定員割れの状況であったことも踏まえ、合格者数や歩留まり率等も含めて分析するなど、長期的かつ安定的な学生確保に努めること。</p>	<p>遵守事項</p>	<p>令和2年度入試は、入試改革の前年度ということもあって、全体的に受験生一人あたりの併願が多くなり志願者数が増加している。そのような状況から、本学の歩留り率は例年より高くならないであろうとの予測を基に合格者数を決定した。しかし、予想以上の歩留り率の結果、入学定員の1.52倍となってしまった。令和3年度入試においては、前年度入試の歩留り率および全体的な動向を踏まえて、合格者数を決定したため、入学定員超過率は1.28倍へと改善に繋がっている。次年度以降も全体的な入試状況を見据えながら定員超過にならないように努めていきたいと考えている。</p>	<p>履行中</p>	
<p>認可時 (令和元年度)</p>	<p>建築・設備工学科の定員超過の是正に努めること。</p>	<p>遵守事項</p>	<p>平成31年度入学者判定会議において、過去の入学試験における志願者、合格者数の歩留り率等のもとに合格判定を行った。平成31年度入学試験において、建築・設備工学科では一般前期入学試験において志願者数は前年度マイナス19%であったが、合格者数をほぼ同数とした。前年度と比較して、入学者の歩留率は35%から27%に減少したのに対して、センター試験利用前期試験における歩留率が19%から28%と上昇した。平成31年度は、前年度に比べ志願者数で22%の減少、合格者数で12%の減少の中、結果として、1.23倍の入学定員超過率となり、年度により歩留率の予測が難しい状況であった。他大学の状況や本学の志願者や過去の歩留率等を考慮しながら合格者を出しているが、年度によって予測が難しい状況であった。入学した学生には、教育の面で支障がないように対応していく。</p>	<p>履行中</p>	

<p>設置計画履行状況 調査時 (令和2年度)</p>	<p>建築・設備工学科の定員超過の是正に努めること。</p>	<p>指摘事項 (改善)</p>	<p>建築・設備工学科は、令和元年度入試において、志願者が定員の2.45倍であったが、令和2年度には、3.46倍の志願者増となった。入試制度の最終年という事もあり、一般入試や大学センター利用入試の志願者の併願者が増える予想であったので、手続者が増えないように対応を考えていたが、推薦入試での志願者増となり全体の入学者数を押し上げた状況であった。次年度は、他大学の状況や歩留率等を考慮しながら合格者を出していくが、年度により予測が難しい。入学した学生には、教育の面で支障のないように対応する。</p>	<p>履行中</p>	
-------------------------------------	--------------------------------	----------------------	---	------------	--

<p>設置計画履行状況 追加書面調査 (令和2年度)</p>	<p>平均入学定員超過率が1.56倍と著しく高いが、その原因分析の状況及び今後の改善策等について具体的に説明すること。</p>	<p>指摘事項 (改善)</p>	<p>平均入学定員超過率が4年間平均で1.56倍と高い原因について、実績(別表1、2)をもとに説明いたします。</p> <p>*参考資料: 別表1「建築・設備工学科入学定員4年間(平成25年度～平成28年度)に関する推移」 別表2「建築・設備工学科入学定員4年間(平成29年度～令和2年度)に関する推移」</p> <p>別表1のとおり、平成27年度までは定員充足できず、大学全体として厳しい状況にありました。こうした状況の中、教育改革および広報戦略による改善を図った結果、平成28年度以降、入学志願者が急激に増加し、令和元年度には定員増(定員60名→80名)も行いました。</p> <p>また、平成27年度に機関別認証評価を受審した結果、それまで入学定員率が0.7倍を下回っていたため、「建築・設備工学科の定員確保」について改善するよう指摘を受けました。このため3カ年以内に改善を図ることを目指し、さらに広報戦略に力を入れる等の取組を行ったことが志願者の増加に繋がったものと考えています。</p> <p>なお、平成29年度1.63倍、平成30年度1.86倍(平成30年度までは定員60名)と志願者及び入学者が増え、結果としてこの2年間の超過率が4年間の平均1.56倍に影響を与えています。</p> <p>ただし、入学定員充足率が必ずしも安定的ではないこともあり、志願者が増えてきた状況にはありましたが、令和2年度の入試においては、これまでの歩留率を勘案し、一般入試手続き率を25%、大学センター利用試験手続き率を20%と推定し、合格者を出しました。結果として想定以上に歩留率が高く推移し、多くの学生が入学手続を行ったため、定員超過率が1.52倍となりました。</p> <p>今後の改善策として、入学定員の完成年度までの2年間、定員超過の改善を図り、大学を取り巻く環境、併願大学の状況調査及び志願状況の歩留率等の更なる分析に努め、完成年度には入学定員超過率を平均1.3倍未満となるよう入学定員の厳格化に努めて参ります。</p>	<p>履行中</p>
--	---	----------------------	--	------------

<p>設置計画履行状況調査時 (令和3年度)</p>	<p>建築・設備工学科の定員超過の是正に努めること。建築・設備工学科の定員超過の是正に努めること。</p>	<p>遵守事項</p>	<p>令和3年度入試の志願者は、入学定員に対して2.95倍であり、前年度の3.46倍に比べると減少傾向であった。合格者の決定にあたっては過去の入試状況、歩留り率等を踏まえ判定を行い、結果、令和3年度入学者は、入学定員に対して1.28倍であり定員超過是正に向けて改善を図っているところである。今後も定員管理は十分留意し、対応していきたいと考えている。</p>	<p>履行中</p>	
--------------------------------	---	-------------	--	------------	--

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

別表1

「建築・設備工学科 入学定員に関する推移(平成29年～令和2年)について」

	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
定員	60	60	80	80
志願者	193	249	196	277
受験者	193	247	191	277
合格者	179	215	183	232
入学者	98	112	99	122
定員超過率	1.63倍	1.86倍	1.23倍	1.52倍
工学部入学者定員	290	290	320	320
工学部入学者数	353	375	381	405
工学部入学充足率	121.72	129.31	119.06	126.56
AO志願者	13	22	12	17
AO合格者	13	18	12	15
AO入学者	11	16	12	15
入学手続率(%)	84.61	88.88	100	100
推薦志願者	33	46	39	57
推薦合格者	33	46	39	57
推薦入学者	33	45	39	56
入学手続率(%)	100	97.82	100	98.24
一般入試志願者	72	89	73	108
一般入試合格者	64	66	63	72
一般入試入学者	34	30	22	24
入学手続率(%)	53.12	45.45	34.92	33.33
センター利用志願者	73	91	71	93
センター利用合格者	67	84	68	86
センター利用入学者	18	20	25	25
入学手続率(%)	26.86	23.8	35.21	29.06

平均1.56倍

手続率は、合格者に対する入学者

別表2

「建築・設備工学科 入学定員に関する推移(平成25年～平成28年)について」

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
定員	60	60	60	60
志願者	80	113	90	141
受験者	77	111	88	141
合格者	76	110	87	140
入学者	35	54	44	78
定員超過率	0.58倍	0.9倍	0.73倍	1.3倍
工学部入学者定員	290	290	290	290
工学部入学者数	271	276	275	328
工学部入学充足率	93.44	95.17	94.82	113.1
AO志願者	4	12	11	10
AO合格者	4	12	10	10
AO入学者	4	11	9	10
入学手続率(%)	100	91.66	90	100
推薦志願者	16	17	17	30
推薦合格者	16	17	17	30
推薦入学者	16	17	17	30
入学手続率(%)	100	100	100	100
一般入試志願者	34	38	20	37
一般入試合格者	30	35	17	35
一般入試入学者	9	14	4	14
入学手続率(%)	30	40	23.52	40
センター利用志願者	26	45	42	63
センター利用合格者	26	45	43	64
センター利用入学者	6	11	14	23
入学手続率(%)	23.07	24.44	33.33	35.93

留学生1名

第二志望合格含 留学生1名

第二志望合格含